

質問  
市は農業、林業の大変厳しい中であって、チーム糸魚川

中山間地域の資源を活用した地域振興について



渡辺 重雄 議員

農林水産部門協働プロジェクトを立ち上げ、生産者の所得向上、担い手の確保、地域資源の有効活用を三本柱により元気な一次産業づくりを進めるとしており、特に、中山間地域農業は「地域の資源」であり、その維持、継続と有効活用が農村集落の存続につながると位置づけしている。以下について伺う。

- 1 市で一番豊富な森林資源を次世代に引き継ぎ、活用していくためには、6次産業化などによる林業の再生が必要と考えるが、現状との方策は。

2 再生可能エネルギーや消流雪溝の整備など新しいかたちでの河川の活用も考えられるが、現状と今後の取り組みは。

- 3 労力や費用の軽減を考えた作物の適地適作の調査研究により、新しい農業を創出することも農村の再生につながるかと考えるが、適地適作とブランド化は。
- 4 地域資源のビジネスの場での再生を願う、6次産業化などによる取り組みの具体策は。

市長答弁  
1 糸魚川産木材の公共建築物への利用や、住宅補助制度による一般住宅への普及に努めるとともに、木質ペレットによる利用を促進していく。6次産業化については、生産森林組合によるきのこ栽培や加工、木質ペレット化等で活用されているが、今後も関係機関と連携して活用を検討していく。

- 2 県道・市道の一部の区間において、河川の水を流雪溝や路面流水に利用しているが、今後多面的な活用を検討していく。また、今年度、小水力発電可能

性調査を実施しており、実用化に向けて研究していく。

- 3 農地の有効活用、担い手の不足と高齢化に対応するため、軽作業で、比較的収益性の高い作物の導入と定着が必要と考えており、ヨモギや山菜の作付の拡大と支援を行っていく。
- 4 直売所をはじめ、農家レストランや雪室などが取り組まれている。また、新たな取り組みとして、手焼きせんべいの商品化が進められており、関係機関と連携して販路の拡大の支援をしていく。

質問

当初は、上屋鉄骨のフランジ補強や鉄骨接合部材の取り

能生B&G海洋センタープール改修工事について



中村 実 議員

換えなど、11か所の補修及び塗装工事ということで、約3,100万円の契約で工事に着手したが、1,437か所の見落としがあり、9月定例会において1,700万円の補正をお願いしたいと、8月8日の総務文教常任委員会において報告があり、また、工期も平成26年10月31日から平成27年3月31日へと変更され、天候によっては年度末の工期内の竣工も困難となり、6月までの繰り越しもありうるとの説明があった。

そこで、補修箇所見落としの原因、市民や他の利用者への

の周知方法、今後の利用形態について、それぞれ伺う。

教育長答弁  
設計時の事前調査においては、足場経費の節減のため、目視による調査を行い、工事の中で塗装をはく離しての詳細調査を行った結果、増工となったものである。水泳授業で使用している市内中学校には、事前に代替利用について協議をしており、市民へは、おしらせばん、ホームページ等により周知を図り、観光客へは、隣接するマリンドリー

質問

権現荘リニューアル事業に伴う休館期間変更の要因、温泉センターの統合の問題点

権現荘リニューアル事業について

△能生の施設内に掲示して周知した。

利用形態については、今後とも今までどおりの形態で、来年7月中旬にオープンを予定している。

市長答弁  
休館期間の変更については、安全性を確保するため、既存建築物の解体中の改修工事を取り止めることに伴い、休館期間を延長したものである。

温泉センターの統合については、地元説明会において、大半の方からは、入浴機能の統合にご理解いただいたと受け止めている。